

取扱区分:「公開」

第1回周南市ウォーカブルなまちづくり推進協議会

議 事 録

注．発言の内容についてはその要旨を記載しております
(発言そのものの記載ではありません)

令和8年3月27日(金) 14時00分～16時00分
周南市役所 1階 多目的室

第1回周南市ウォークアブルなまちづくり推進協議会議事録

1 開催日時 令和8年3月27日（金） 14時00分～

2 開催場所 周南市役所 1階 多目的室

3 出席者（順不同、敬称略）

委員：	東京大学大学院	教授	羽藤 英二
	周南公立大学	教授	岩本 直
	徳山工業高等専門学校	教授	中川 明子
	筑波大学	准教授	浦田 淳司
	社会福祉法人周南市社会福祉協議会	事務局長	小林 展衣
	周南地域子ども応援連絡協議会	事務局長	原田 宗隆
	徳山商工会議所	専務理事	小林 和子
	周南市中心市街地活性化協議会		徳山 由美子
	周南市景観整備機構		村越 千幸子
	防長交通株式会社	乗合営業部課長	藤井 崇
	周南公立大学	学生	島元 大地
	徳山工業高等専門学校	学生	山本 和弥
オブザーバー：	財務省 中国財務省管財部	管財統括第二課長	金井 洋
	国土交通省 中国地方整備局建政部	都市・住宅整備課 建設専門官	塚本 勝幸 (代理出席)
	国土交通省 中国地方整備局営繕部	整備課長	藤田 剛弘
	株式会社山口銀行 徳山支店	次長	三坂 哲郎
	山口県 周南警察署	交通課規制係長	吉岡 真吾 (代理出席)
	山口県 土木建築部都市計画課	主幹	三奈木 孝 (代理出席)
	山口県 土木建築部周南土木建築事務所	次長	森上 健 (代理出席)
事務局：	都市整備部	部長	行富 広康
	都市整備部	次長	河村 直

	都市整備部都市政策課	課長	原田 修司
	都市整備部都市政策課	課長補佐	金子 容子
	都市整備部都市政策課	係長	守田 香奈枝
	都市整備部都市政策課	主任	栢 弘樹
	都市整備部都市政策課	一般	岸田 帆乃佳
関係課：	産業振興部中心市街地活性化推進課		
	企画部企画課		
	都市整備部公園花とみどり課		
関係者傍聴：	5 名		
傍聴：	1 名		

4 議事

(1)周南市ウォーカブルなまちづくり推進協議会の役割について

(2)山口県持続可能なまちづくり集中支援事業について

(3)市民館跡地基本構想・基本計画・中間報告内容

(4)周南市都心軸景観デザイン方針の作成について

(5)景観デザイン方針作成に係る検討の進め方について

5 議事の要旨

開会 14 時 00 分

開会宣言

委員の定数報告

部長挨拶

委員紹介

会長及び副会長の選出

会長挨拶

(事務局)

それでは、会長、よろしくお願いいたします。

(会長)

非常に議題が多いですけれども、次第に沿って議事に入りたいと思います。

まず1つ目、「周南市ウォーカブルなまちづくり推進協議会の役割について」、事務局よりご説明をよろしくお願いいたします。

(事務局)

議事1「周南市ウォーカブルなまちづくり推進協議会の役割について」ご説明させていただきます。

まず、中心市街地の取り組みについてご説明いたします。中心市街地の取り組み状況として、中心市街地に関する庁内の計画などの関係性についてご説明いたします。

上位計画として、市全域の都市の将来像などを示す「周南市都市計画マスタープラン」がございます。都市計画マスタープランでは、徳山港周辺から徳山公園周辺までを都心軸と位置付け、4つの拠点の連携と強化で周南地域の中心都市としてふさわしい拠点形成を図ることとしています。

このエリアでは、中心市街地活性化基本計画を第1期、第2期と策定しており、第2期では、「まちの資源を活かした、誰もが主役となれるまち、公園都市（パークタウン）周南」を理念として、誰にとっても居心地が良く、みんなの公共空間になることを目指すこととして事業を行って参りました。

このようなことから、このエリアでは徳山駅周辺整備事業をはじめ、動物園リニューアル、市役所新庁舎建設などを始め、民間においても市街地再開発事業が行われるなど、官民で拠点形成の強化に努めて参りました。拠点形成は進んで参りましたが、依然として課題はあり、拠点間の連携が進んでいないということが挙げられます。

例えば、徳山駅前賑わい交流施設は、年間 200 万人の来館者があります。市街地再開発事業も含めて駅周辺には賑わいが生まれていますが、その賑わいが商店街や周辺には広がっていない、また、各拠点間も回遊性が生まれておらず、拠点機能の強化がまちに生かせておりません。

そうしたことから、現在の取り組みとしましては、後ほど議事 2 でご説明しますが、山口県の「持続可能なまちづくり集中支援事業」という、山口県が市のまちづくり計画の策定を支援し、策定した計画に県の事業がある場合は、適切な役割分担のもと、集中的に取り組むというのですが、都心軸地区は支援事業として採択され、現在、回遊性向上に向けた「周南市都心軸ウォーカブルなまちづくりビジョン」を策定中で、素案まで概ね取りまとめているところです。

また、山口銀行様の裏に駐車場がありますが、もともと市民館があった所で市民館跡地と呼んでいます。山口銀行様の敷地も含めて、このエリアの利活用、導入機能などについて、現在、基本構想・基本計画を策定しているところです。こちらについては議事 3 でご説明させていただきます。

さらに、先ほどの回遊性不足という課題を解決するための策として、御幸通の利活用について進めていきたいと考えています。後ほど議事 4 でご説明しますが、その際、市民館跡地という拠点形成も含めて、統一的なデザインを形成するため、都心軸景観デザイン方針というものを策定し、駅から御幸通、市民館跡地まで一体的なまちづくりを進めようというものでございます。

本協議会では、主に景観デザイン方針の策定について、ご意見をいただければと思っております。各計画の関係を整理いたしますと、市全体の都市計画マスタープランがあり、このエリアの活性化を目指す中心市街地活性化基本計画、そのうち、回遊性向上に向けたまちづくりビジョンがあり、その施策の 1 つとして、御幸通から市民館跡地までの景観デザイン方針を策定しようというものでございます。策定にあたっては、市民館跡地の基本構想・基本計画と連携を図りながら進めて参ります。

それでは、本協議会についてご説明いたします。設置目的は、周南市ウォーカブルなまちづくり推進協議会設置要綱の第 1 条として、ウォーカブルな空間の創出、回遊性の向上及び良好な景観デザインの形成としています。所掌事務として、第 2 条に 4 つありますが、特に「3. 御幸通から市民館跡地周辺までの景観デザインに関する事」というところで、今回作成する「都心軸景観デザイン方針」についてご意見をいただければと思っております。

委員構成として、第 3 条に記載していますが、様々な視点からご意見をいただくため、各分野から委員として参画いただいております。今後、対象エリアの整備というところまで見据えますと、大きな課題として複数の事業主体が関わるということで、事業主体間の意識の共有というところが挙げられます。そのため、事業主体者関係者の皆様には、オブザーバーとして、本協議会にご参加いただき、景観デザイン方針、また本協議会の議論を皆様で共有

できればというふうに考えております。

次に、景観デザイン方針の作成時の協議会との関係図がこちらになります。緑色が周南市、水色が委員の皆様、そして青色がオブザーバーの皆様になります。左側の御幸通エリア、右側に市民館跡地エリアというふうに分けて表示しております。

周南市が景観デザイン方針の事務局案を作成し、本協議会に提案して、皆様からご検討、ご意見等いただきたいと考えております。皆様にはそれぞれのお立場からご意見をいただければと思っております。

景観デザイン方針作成の進め方ですが、詳しくは議事５でご説明いたしますので、ここでは簡単に流れをご説明いたします。

上のグレーの記載は事務局での検討、中段の緑と赤の表示が本協議会、一番下の薄いオレンジが並行して進めていく市民ワークショップになります。

本協議会としましては、本日が第１回、７月頃に第２回を予定していますが、その間に市民ワークショップ、アンケートを行い、御幸通がどういう空間になればいいかなど、市民の意見を踏まえて、コンセプトを検討したいと考えております。第３回協議会が秋頃、第４回協議会が冬頃を考えており、概ね１年間で方針の策定を予定しております。本協議会、市民ワークショップ、事務局での検討をリンクさせながら進めていければと考えております。

皆様には、景観デザイン方針の策定以降も関わっていただきたいと考えております。今後、御幸通、市民館跡地の事業が決定した場合の関係図をお示ししております。先ほど複数の事業主体が関わるということを申し上げましたが、例えば御幸通につきましては、県道ということもあり、山口県土木建築部様、市民館跡地につきましては、国の合同庁舎がございますので、中国地方整備局様、中国財務局様、また、山口銀行様の敷地も含めて一緒に連携して考えるということなので、山口銀行様、そして周南市というところで、複数の事業主体が関わることになって参ります。それぞれの事業が進んでいった際には、設計状況などを本協議会にご報告させていただいて、それに対して、協議会の皆様から、景観デザイン方針に沿っているかなどをご確認、またご意見をいただければと考えております。ここにいらっしゃる皆様が一体となって、このエリアのまちづくりを進めていければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

議事１についてのご説明は以上となります。

（会長）

議事の１つ目、推進協議会の役割等についてのご説明がありましたが、何かご質問、ご意見ある方いらっしゃいますでしょうか。

（委員）

資料１の８ページ目ですが、景観デザイン方針の作成というところで、事務局として都市

政策課があるわけですが、新聞情報で中心市街地活性化推進課が無くなり、商工振興課へ統合されると見ました。4月以降の中心市街地活性化推進課に関する体制ですが、統合されるので、中心市街地活性化推進課についてもその機能が縮小されるのか、それとも今までと同様にこの中心市街地活性化推進課の仕事を市役所としてされるのか、どちらでしょうか。

（会長）

事務局からはいかがでしょうか。

（中心市街地活性化推進課）

今のご質問についてですが、体制は、中心市街地活性化推進課が商工振興課に統合されて、その中に中心市街地活性化推進担当というものができます。組織はそうなりますが、中心市街地の活性化自体の重要性は変わらないと、市として考えております。ただ、商工振興課と一緒にすることで、それぞれ重なる部分もありますので、その中で、一緒になって機能を発揮していくことが大事ではないかと思っております。

（委員）

了解しました。

（会長）

他の方々よろしいでしょうか。

一番重要なのは、この取り組みが市民の方々を中心にして、様々なプレーヤーの方々が参画する事業計画づくりという点です。そこには公立大学、高専も含みますが、若い方々、それから建築士会の方々、そして行政側でも市だけではなく、県、国、様々な方々がこのプロジェクトに関わってくることになります。

さらに難しいのは、御幸通と市民館跡地という2つのプロジェクトを同時に、良い相互作用を引き起こすようにしてこのプロジェクトを進めていくことで、ウォークブルが実現するということになっておりますので、非常に難易度が高いです。しかし、逆にここをうまくやることであれば、周南市の顔になるようなエリアが、非常にうまく再生し、子供たちから大人たち、高齢の方々まで、色々な市民の方が集える場所になってくるということですので、ぜひ、様々なプレーヤーの方がおられるということを念頭に取組んでいければと思っております。

それでは次に、2つ目の議事の説明をお願いします。

（事務局）

議事2、山口県持続可能なまちづくり集中支援事業につきましてご説明いたします。

山口県持続可能なまちづくり集中支援事業については、事業の概要やまちづくりビジョンの内容、この事業と一連で実施した社会実験につきましてご説明いたします。

まず、山口県持続可能なまちづくり集中支援事業とは、人口減少下でも活力を維持し、持続可能な地域を創るため、山口県が官民一体のまちづくりに積極的な市町を集中的に支援するもので、支援対象地区において、民間アドバイザーのサポートのもと、民間と行政、それぞれの役割分担を明確にし、官民一体となったまちづくり計画を策定するものです。

計画策定後は、エリア内の県道整備など、県が担うべき事業に集中的に取り組んでいただき、官民一体のまちづくりの取り組みを加速させ、将来にわたる活力ある持続可能なまちづくりを推進するものとなっております。

県による具体的な支援内容につきましては、まず1つ目は、計画策定の支援です。市町のまちづくりにおける地域課題を解決するため、県が支援チームを設置します。2つ目は、県が委託した民間アドバイザーが官民一体となったまちづくり計画の策定をサポートします。3つ目は、県事業への集中投資で、提案された計画に基づき、市町と県で役割分担を明確にした上で、エリア全体のハード面、ソフト面の両方において、県が担うべき事業に集中的に取り組んでいくこととなっております。

これらの支援を通じて、まちづくりに関わる基本計画や実施計画を策定し、支援対象地区の将来ビジョンを具現化していきます。

次に、事業スケジュールにつきましては、支援対象地区が令和5年度から令和8年度の4年間で3地区選定され、本市は令和6年度に採択されました。まちづくり計画策定の流れとしましては、初年度に基本計画の策定、2年目に実施計画の策定を行います。

続いて、本事業の支援対象地区については、周南市都心軸地区となります。

周南市都市計画マスタープランでは、徳山港から徳山駅、市役所、徳山公園までの区間を都心軸として位置付けており、周南地域の中心都市にふさわしい拠点の形成や、そして都市としての魅力向上を図ることとしています。

議事1でご説明しましたように、都心軸における各拠点の整備により、拠点性の強化は進んでいましたが、拠点間の回遊性の不足や滞在環境の整備については課題となっています。

これまで強化してきた各拠点の効果をさらに高め、様々な視点から面としてまちづくりを推進し、ウォーカブルな空間創出につなげていくことが、課題解決のために重要であると考えています。

将来像にかかるターゲット層は、都市の持続性や将来性を維持するため、若者世代や子育て世代を中心としています。

それでは、県の支援を受けて策定している計画についてご説明します。

本市では、都心軸の将来像となるビジョンについて、本事業を活用して可視化し、回遊性の向上を核とした周南市都心軸ウォーカブルなまちづくりビジョンを策定している最中です。

本ビジョンは周南市都市計画マスタープラン、中心市街地活性化基本計画などを上位計画

とし、中心市街地の都心軸におけるまちづくりの基本的な計画として位置付けています。

都心軸の将来像を共有するとともに、拠点形成及び回遊性の強化に向けた施策を取りまとめ、持続可能なまちづくりを官民連携で進めることを目的としています。

実現に向けた基本的な考え方として、まちづくりの理念である公園都市（パークタウン）を実現するために、拠点機能の強化に加え、拠点間の連携強化、憩いの空間の創出の3つを具体的なまちづくりの方針としています。

拠点機能の強化では、各拠点や利用目的に応じた滞留の場や、小さな回遊の創出、快適な空間の確保等により、拠点の魅力を向上します。

拠点間の連携強化では、中心市街地の統一的な街並みの形成や、先進技術を活用した交通ネットワークの強化、地域イベント等の開催連動により、大きな回遊の創出を生み出します。

憩いの空間創出では、公共的な休憩スペースの整備や、エリアごとの特性を活かした空間の活用、良質なまちなみ・デザインによる魅力ある空間づくりの促進により、都心軸に滞留、回遊したくなる空間を創出します。

これら3つの方針について、官民連携による取り組みや先進技術等を活用していきながら、居心地よく歩いて過ごしたくなるウォーカブルなまちを目指します。

これまでの内容を踏まえ、将来のイメージをまとめると、9ページのようにになります。

都心軸全体の回遊性を高めていくためには、各拠点の魅力を最大限に引き出し、それらを相互に連携させることで、人の流れや賑わいを創出していくことが必要です。このような考え方のもと、本ビジョンでは、今後の方向性を示すとともに、アクションプランなどの策定を進めています。

本事業では、想定している将来像が実現可能であるか、効果は発揮されるのかという検証を行うため、社会実験を実施することが必須となっております。そのため、令和7年10月から11月にかけて、御幸通で実施した社会実験につきまして、中心市街地活性化推進課よりご説明いたします。

それでは、10月25日の土曜日から11月5日の日曜日までの9日間にわたって行った「ミライバしゅうなん御幸通可視化社会実験」についてご報告します。

目的としては、御幸通の副道の道路空間や歩道空間の活用による社会実験を通じて、徳山駅周辺の滞留空間の設置による効果や、どのような機能が必要かなどを調査・分析し、御幸通の道路空間のあり方を検証するということで行いました。

お示ししておりますように、御幸通の東側の副道を通行止めにし、通行止め空間に、飲食ゾーン、休憩ゾーン、kidsゾーン、地域交流ゾーンを設け、配置による効果を検証しました。

また、日によって、イベントがある日とない日、出展ブースがある日とない日など、条件を変えて9日間行いました。

各ゾーンの実際の風景については、11ページから12ページの写真の通りで、画面左側が飲食ゾーン、右側が休憩ゾーン、画面左側がキッズゾーン、右側が地域交流ゾーンの様子で

す。

13 ページから 15 ページの写真は、実験期間中の風景となります。キッズゾーンで親子連れが楽しんでいる様子、休憩ゾーンで絵本の読み聞かせをしている様子、休憩ゾーンで高校生がくつろいでいる様子、歩道のテーブル椅子でくつろいでいる様子です。平日の昼間にキッズゾーンで、沿道ビルの人々が休憩している様子、親子3世代がくつろいでいる様子、学校帰りに小学生が遊びに来てくれた様子、ライトアップした様子、平日に飲食ブースに賑わいのある様子、ほぼ毎日来てくれた小学生複数名が、ホワイトボードに「このような施設を残して欲しい」といったメッセージを書িয়েくれた風景、地域交流ゾーンで物販をしている風景になります。

このように、多様なコンテンツを幅広い世代に利用していただくことができました。

来場者のアンケートで「副道がすべて社会実験のような憩いの空間になることは、どう思いますか」という問いでは、「とても良いと思う」が約 62%で最も多く、次いで「良いと思う」が約 34%と、全体の約 96%の方から、「とても良い」「良い」と回答がありました。自由記入欄では、「ゆっくり滞在できる雰囲気よかった」「人が交流することが色々な場所にできればいいなと思う」「散歩途中に休憩できる場所や、子供が遊べる場所があるのはいいことだと感じる」などの意見がありました。

17 ページは、社会実験を行った御幸通の東側と西側の通行量で、歩道部分の通行量を計測したものです。計測時点ではない部分の計測漏れの可能性はありますが、AI カメラを活用して計測した通行量となります。

御幸通の東側歩道は、西側歩道からの転換も想定されますが、平常時と比べて通行量は増加しました。社会実験前の 10 月 19 日の日曜日と、蚤の市のあった 10 月 26 日の日曜日との比較では、同じ日曜日でも、10 月 26 日が約 3 倍増加しています。平日ですと、社会実験前の 10 月 21 日の火曜日と、飲食・物販ブース等がなかった 10 月 28 日の火曜日との比較では、10 月 28 日が 1.1 倍増加しており、同じく社会実験前の 10 月 23 日の木曜日と飲食・物販ブースが充実していた 10 月 30 日の木曜日との比較では、10 月 30 日が 1.2 倍増加しています。

このように社会実験による人流の増加に、一定の効果が得られたのではないかと思います。

社会実験では、「御幸通全体を社会実験のような空間にしたら」というテーマで、御幸通の副道が歩道化されているシミュレーションを市民の皆様に VR ゴーグルで体験していただくイベントを実施しました。実際にご覧いただいたシミュレーションを動画としてご覧いただきたいと思います。

体験会後のアンケートの質問で「御幸通が社会実験、VR のようになったらどう思いますか」という問いに対して、58 人の回答のうち 96.6%が「良いと思う」と回答しており、好意的に捉えていただけたと思います。

以上で、山口県持続可能なまちづくり集中支援事業についてのご説明を終わります。

（会長）

議題が多いので、次の市民館の話も続けてご説明いただいて、その後まとめて、各委員の方々からぜひご意見いただけたらと思います。

（企画課）

市民館跡地エリアの整備についてご説明いたします。

まず、これまでの検討経緯です。

周南市市民館は、平成 27 年 12 月に閉館し、現在は市役所臨時駐車場となっており、既存建物は保健センターのみとなっております。

令和 6 年 12 月に「周南市市民館跡地利活用構想」を策定し、利活用の方向性を、①国の機関の集約化、②文化小ホールの整備、③徳山保健センター等の機能拡充、④駐車場整備としたところです。

また、策定中であった「仮称：周南市文化小ホール整備基本構想・基本計画」は、①周南市文化会館の大規模改修と事業実施時期の重複、②山口銀行の事業参画の可能性を持って、令和 6 年 12 月に中間報告として取りまとめ、中断していました。

今後につきましては、山口銀行の関心表明を受け、市民館跡地に加え、山口銀行徳山支店や旧周南警察署徳山中央交番を含めたエリア全体を含め、「周南市市民館跡地エリア整備基本構想・基本計画」として、令和 8 年 12 月の完成を目指し、計画策定を再開したところです。

次に、基本的な考え方です。まず、前提条件の整理として、予定配置図は 6 ページに示すとおりです。

敷地の北側、地方検察庁側の岐山通沿いに、国の周南地方合同庁舎、その東側、市道児玉町線側に立体駐車場、南側に、市及び山口銀行で整備予定の複合施設を予定しています。岐山通への賑わい創出や、児玉公園との連携、駅からのアプローチなどが課題であると考えております。

エリアコンセプトは、「日常を紬ぎ、つながりを育て、未来を歩む」としています。

ここは、国の機関であるハローワークや税務署などに加え、保健センターでの健康相談や子育て支援など、日々の市民の暮らしを支える場所となります。子供から大人まで安心して集える場であり、講座の受講や習い事、市民活動による学び合い、音楽や芸術活動を通じて、新たな創造と交流が生まれます。これらの活動や発表の場が新しいつながりを生み出し、先輩・後輩や親子・孫など、世代を超えた縦の繋がりへと発展します。こうしたつながりが重なり合い循環することで、未来を創るまちのシンボルとなって欲しいという願いを込めております。

次に導入機能の整理です。8 つの機能と、国庁舎や銀行支店による生活利便性機能の全 9 つの機能を導入したいと考えております。このうち、主な 7 つの機能について 1 つずつご説明いたします。

①出会い交流創出機能は、こどもからお年寄りまで、多世代が緩やかにつながることできるフリースペースです。写真は、委託事業者から示された他市の事例からのイメージ図となります。

②発信拠点機能は、幅広い世代が日常的な活動ができる諸室の機能です。併せて、まちの魅力を発信、PR できるコーナーのイメージです。

③創造拠点機能は、文化活動の拠点となる市民の創作発表の場です。もちろん、日常の練習や文化芸術活動ができる空間としても利用可能です。

④人材育成機能は、市民活動のスペースで、会議や講座、研修会など、様々な用途に使える多目的な会議室などを想定しています。

⑤こどもの居場所機能は、中高生が集い、学習できるスペースや、日常的な文化芸術活動ができる諸室、音楽やダンスなどの練習室をイメージしています。

⑥子育て支援機能は、子育て交流スペースや母子保健の専用室、キッズルーム、子育て相談室などです。

⑦健康増進機能は、主には検診ルームの整備で、健康に関する情報発信や開放型の調理室などとなります。

最後に、スケジュールについてです。基本構想・基本計画は、12 月までに完成を目指します。主な検討内容は、先日の第 1 回有識者会議にて、前提条件の整理や施設を取り巻く状況整理、エリア整備のコンセプト、導入機能案となりました。

今後は、5、7、9、10 月にそれぞれ有識者会議を行い、配置整備パターンの検討や、ゾーニング検討、事業・運営方針の検討、概算事業費の検討、事業手法の検討と進め、素案を作成し、パブリックコメントを経て取りまとめ、完成としたいと考えております。

市民の皆様のご意見につきましては、中間報告までに実施した市民ワークショップ、市民アンケート調査の結果、団体ヒアリング調査結果に加え、今回新たに多くの人が集まるイベント会場などに説明パネルや資料を提示し、事業内容を紹介しながら、スタッフが直接ご意見を伺うオープンハウスや高校生・大学生を対象としたワークショップを開催し、取り入れていきたいと考えております。

(会長)

ここまでが山口県が進めているウォークブルの検討事業と、市民館の検討状況についてでした。動画もありましたので、非常にわかりやすくイメージが湧いてきたのではないかと思います。「こういったことはどうなっているのか」或いは「こういうことを周南市では頑張っていたらどうか」など、委員の皆様からご意見いただけたらと思っております。

(委員)

市民館跡地から御幸通の全体を考えると良いと思います。一つ引っかかっている

ことは、企画課の方でもワークショップを行います、山口銀行様などの民間を対象に含んで検討しているということで、山口銀行様の建物は素晴らしく良い建物で、それ壊すのかな、壊さないでほしいな、と第一に思っています。本当は景観重要建造物に指定して良いくらい、景観を壊さない良い建物だと思っています。

今、色々な導入機能があることは、子育てやこれからの若い人たちが、街で暮らしやすくなるためにはとても良いことだと思っています。

何でも壊して作り変えるのではなく、利用することも考えてほしいと思っています。公園やその周辺の繋がりも良く、御幸通との繋がりもすごく良いので、御幸通の景観デザインを行うことは良いことだと前向きに考え、私も頭を絞りながら一生懸命頑張りたいと思います。

(会長)

力強い「頑張りたい」というお言葉をいただきましたので、皆で頑張れるかと思います。闇雲に、今ある地域資源を壊してしまうことは慎重に、というご指摘です。御幸通のヒマラヤスギ、いくつかの通り、市民館跡地など、そうしたところは十分に調査を行いながらというご提案をいただきましたので、大事にしていきたいと思いました。

(委員)

私は主に、街中ではイベント等を仕掛ける方でまちづくりに参加して参りました。今回の御幸通から考えていくにあたり、かなり大掛かりなまちの見た目の変更になってくると思いますし、出来上がったものをどのように活用していくかが大事だと思っているので、最初の出来上がるまでの作り始める段階で協議会に参加させていただけることをとても光栄に思っております。

その中で、資料2の6ページのまちづくり集中支援事業の概要を眺めて思ったことは、エリアをゾーニングして、それを結びつけてウォークアブルなまちにしていく、人を循環させるという考え方とは思いますが、エリアをゾーニングするデメリットとしては、目的が全然違ってくるので、そのエリアで完結してしまいやすくなる気がします。ある目的のために、行政拠点や文化拠点に行って帰るということが、今ある「点」になってしまっているところだと思います。これらを繋いでいく方法として、イベントを仕掛けてきて思ったことは、後付けで人を循環させることは幾らでもできるのではないかと実感しています。各エリアが居心地の良い場所であることが、作っていく段階ですごく大事なことだと思いました。まず、ここに行きたいと思ってもらい、そこからプラスワン、次のエリアに行く仕掛けというのは、出来上がってからも多く考えることはできるのかなと思っているので、居心地が良く過ごしやすい、居たくなるような空間づくりができれば良いと思っています。

（会長）

それぞれのゾーンが何か居心地が良く、かつ、プラスワンというのが、非常に良いご意見だと思います。それを生み出すようなイベントやプログラムなどで、決して1つの場所に閉じない形を目指したいというのは、皆さんにも共通する目的意識になりそうで、事務局としても参考になるご意見をいただきましたと思います。

（委員）

私も、今まで中心市街地活性化協議会さんと市と共にまちづくりに関わらせていただいております、社会実験も一緒にやらせていただき、御幸通から市民館跡地までの今回のラインは、先ほど会長がおっしゃったように、周南市の顔となる通りなので、ぜひ統一した景観、デザインにさせていただいて、後世に残せる通りにしたいという思いを強く持っております。

今の御幸通は車道、歩道も含め、ガタガタで少し通りづらく、事故の危険性が高まっているので、早く整備できたら良いと思っています。その中で御幸通と市民館跡地が連動するような形になればいいと思っています。

先ほど資料3の中でスケジュールが示され、ゾーニングや機能をお示しされましたが、機能やゾーニングは、山口銀行様がどうされるかがすごく大きなところだと思いますが、ゾーニングや機能も、山口銀行様が建てられる建物も含めた上で機能を考えていくということでしょうか。

（会長）

事務局、分かる範囲で結構ですけれども、お答えいただいてもよろしいですか。

（企画課）

もちろんエリア整備基本計画とさせていただいておりますので、山口銀行様とも足並みをそろえながら調整して、全体のエリア整備という形でお話をさせていただけたらと思っています。

（委員）

山口銀行様の機能はもちろん、建てられるビルの中に、市としても色々な機能、今計画されているような機能をお願いするとか、入居させるところもあるということですか。

（企画課）

色々な可能性は当然あると思います。9つの機能と言いましたが、どこがどういう形で協力できるかも含めて、一緒に協議を進めているところでございますので、有識者会議の各回の内容については、本協議会の各回でお知らせできることをお諮りしていきたいと思っています。

（委員）

今示された機能は、もうこれで決定していますか。何か、「こういう機能があった方がいいのではないか」とご意見があるときに、この会議の中で少し協議をされる余地もありますか。

（事務局）

今、委員が発言された市民館跡地の敷地の中での機能につきましては、市民館跡地の方で検討しております「有識者会議」というのが別にございます。そちらの方で導入機能は検討していただくことになっております。こちらのウォーカブルの協議会では、意匠やデザイン、空間のつくり方などについてご意見いただきたいと思います。そういう住み分けで考えております。

（会長）

ここが一番、今回のプロジェクトの肝になっていると思います。市民館跡地のところが山口銀行様も含めて、どのような機能を街路と建築側で相互作用を引き出していけるかが、ウォーカブルで駅から街へ、街から駅へ、この循環を目指すための肝となると思いますので、ぜひ2つの委員会が連動するような形で議論が進めていければと思いました。

（委員）

福祉の団体の立場としては、居場所づくりという観点から、この委員会に参加させていただいていますが、全体的な景観というところでは市民館跡地の方の委員会にも関わらせていただいていますので、総合的に全体の景観を考えていくには非常に良い計画だろうと思っています。

私どもの中では、やはり防災が気になってくるところで、大きな御幸通が防災の観点として、どういう位置付けでご検討されているかを少しお伺いしたいなというところです。まず、災害時も平常時も活躍できるまちづくり、居場所づくりを目指していて、そういった活用ができる場所ができていくと思っていますが、いかがでしょうか。

（会長）

防災はまちづくりにおいて非常に重要な視点でございますので、当然、このウォーカブルの中でも避難の拠点として使っていく、避難訓練をまちづくりと一緒にやっていくなど、色々な考え方や使い方、イベントと絡めてもできると思います。事務局から何かございますか。

（事務局）

御幸通につきましては、市民館跡地もちろんですが、市役所という防災拠点もございます。市役所をつないでいるというところで、防災としても大事な機能になってくると思って

おりますので、そういう考え方も検討の中に含めていくことも重要かと思っております。

（会長）

防災の視点はとても大事な視点だと思います。そこが盛り込まれていることで、市民の皆さんの居場所としての安心感が増すということだと思いますので、ぜひそうしたこともこの中で考えていければと思います。

（委員）

機能の中から関係あるところは、健康増進機能と避難所機能のところであると思いました。災害が起こったら、災害ボランティアセンターを立ち上げて、そして来てくださった方の受け入れにあたる拠点でありますので、そのような機能がこの街中にあるのであれば、色々な活動支援ができるのかなと思いましたし、そういったところが一番気になっております。

健康増進の部分としては、やはり介護保険で入れる方々の要望がありますので、介護保険に入る前に、皆様の健康増進のための体操教室や、講座が開いているところが街中にあれば、来やすいと思いました。

あと、まちづくりの観点から申しますと、土日に施設からご自宅に戻ってこられる障害者の方は結構多く、連れて歩く場所がないところが多いです。一緒にお買い物されている方や、高齢の障害者の方と高齢のお母さんなどが、開放型の空間があると、色々な観点から障害者にも優しいまちづくりができるのではないかと思います。

（会長）

ボランティアセンターをどこに置くのかが本協議会で明確になり、健康増進のプログラムが、日常的に歩きながら拠点がある形だと非常によさそうですね。防災拠点としても生きるということで先ほどの委員の方からのコメントにも繋がるかと思います。

また、よくあるのはリハビリで通りを歩く方も結構多いので、徹底的にバリアフリーで歩きやすい、高齢者の方も若い方も歩きやすくすることで健康の増進に繋がっていくような、そういう仕組みが、ぜひこの中で取り込んでいけると周南市の個性のある御幸通ということになろうかと思います。ぜひよろしくお願いいたします。

（委員）

交通事業者という観点から少し発言させていただきますと、副道部分に「周南市役所前」というバス停がございます。下松方面から徳山駅に向けて行くときに、バスが周南市役所前の交差点を左折してすぐ先にあり、そこで降りられるお客様がいれば、そこに停車するという形ですが、資料2の中にあるVRのイメージ図を見ると、完全に副道が歩道になっているようで、バス停がないイメージ図になっています。

徳山駅側は、東山口信用金庫様の前のところも徳山駅前降車場として使用させていただいております。当社からすると、全面的に副道が歩道とされると、困るなというところがございます。

スケジュールより第2回の協議会が7月頃で、その中で道路構成案が出されるとなっておりますが、このときに同様のイメージのものが提示されるということでございますか。

(会長)

この辺りについて事務局からいかがでしょうか。

(事務局)

バスは大変重要な公共交通と認識しており、バス停があるということも当然認識しております。第2回協議会のときにどこまでの案が出せるかは、ワークショップを経た後ということで、まだコンセプトの検討段階であることもあり、どこまで具体的なものかを今ご回答するのは難しいです。ただ、バス停等は必要ということも認識しておりますので、平面計画を作っていく中で、また個別にもご相談させていただきながら進めていければと思っております。よろしくお願いします。

(会長)

今まさにご説明あったように、やはり公共交通が大事だというのは、周南市は非常に意識が強いので、どこに、どういうふうに停めやすい形で設定していくのか、或いは自動運転の実験もやっておりますので、新たなモビリティも含め、道路空間を再配分します。市民ワークショップなども経ながら、そのあたりを議論していければと思います。

(委員)

大学生の視点から言うと、他の県から来て周南市に来た人たちがほとんどだと思います。周辺の地区を知らないのが自分の素直な意見で、歩きやすくなることもとても大事で、新しい機能も大事だと思いますが、周南市の元からある価値にも繋げていくことが大切なのかなと思いました。

資料3の機能のところで、大学生に刺さる機能がないなと感じていて、何かイベントがあるのか、建物が新しくなるのか、どこでも何か刺さるようなことがあると思いました。

(会長)

これは一緒に作っていきたいですね。

（委員）

そうですね。自分も考えていきたいと思います。

（会長）

周南市も若い人に対する目線をすごく強く持っていますので、ぜひ、大学生の皆さんにもワークショップ等に参加していただきながら、使いたくなる居場所にしたいくなるような機能を、プログラムを、まちづくりの中で組み込んでいけたらと思います。

（委員）

市民の意見として、市民が利用するためには利便性や安全性というのがすごく大事だと思っています。あとはデザイン、色の鮮やかさや開放感があるなど、そういった空間を利用したくなるので、デザインの色や空間の使い方は、今回の協議会で考えていきたいと思います。

色々な地域から来る人や学生の多くが、この場所を利用することも多いので、周知するとか、目立たせるためにはどういうことをしたらいいのか考えていけたらいいと思います。

（会長）

例えば、徳山駅だったら内藤先生のデザインで、図書館の中に黄色のエレベーターコアがあります。すごく色鮮やかで、少し意外な配色だったのですが、内藤先生は意図的にあのカラーを採用することで、わかりやすい動線をイメージしてデザインされたそうです。

この新しい通りも色々なデザインで、若い人たちも、外から来た人たちも使いやすくなるような、先ほど歴史の話も出ましたが、周南市のビジターセンター的な役割が果たせるような、そういう通りのデザインをみんなで議論していけたらと思いました。

（委員）

回遊というところをどう生んでいくのかが1つのポイントだと思います。この行政拠点というネーミングだと、なかなか人が寄ってこないかなというところもありますので、実際よく見てみると、非常に色々なバリエーションがある機能が入っているので、この場所をどういう場所だと位置付けていくのかは、ワークショップで大学生、高校生の意見を聞きながらやっていけるといいのかなというところが1つです。

もう1つは、南北の回遊というところで、岐山通だけでなく児玉公園側の細道も非常に魅力的ですので、歩行者に加えて自転車、バス、全体でどういうふうに南北に移動していくのかというのを、変更する通りも考えながら、デザインしていけると非常にいいまちになっていくのかなと思っています。

(会長)

周南市の方にワークショップでも何度も来ていただいているようですので、引き続き伴走の方も合わせて、引き出していただくようなことをお願いできればと思っております。

(委員)

どんどんハードルが上がっていて、恐ろしいなと伺っていたのですが、今日皆さんが色々なご意見を言いやすい場を会長が作ってくださったのが、すごくありがたかったなというのが1つ目です。言いやすい雰囲気でどんどん意見が出てこない、良いものにはなっていないと思いますので、雰囲気を大事にさせていただけたらありがたいなと思っております。

私の観点、専門的な分野観点から言わせていただきたいことが1個あり、歴史の重なっている場所の再開発になると思うのですが、他委員もおっしゃったように、何か残したほうが良いものとか新しく作り変えたものを良いもの、というものをもう少し丁寧に練っていったほうが良いのかなというふうに私も感じております。山口銀行様の社屋もですが、裏側には児玉神社と市民館の間にある台湾五葉松の並木、あるいは児玉神社、その前の児玉公園といったものは、近代の周南地区の歴史を語る上で、欠かせないものだと思いますので、そういったものも、ちょっと配慮していただくような観点をもっていただけたらという希望を持っております。

そのことに関連しているのですが、本事業は街区開発になると思うのですが、街区開発すると、なぜか内向きになっていると感じる事例がありまして、街路と建物の関係性も大切に考えていただくと、建物を目指して人が行きやすいのかと思います。街区の中の街路という考え方ももちろんあると思いますが、既存の街路を通して、皆様いらっしゃると思いますので、既存の街路と建物の関係性というのは忘れずに大事にさせていただけたらと思いました。

これからの検討で色々変わると思いますので、そこは今後の議論を注視していきたいです。

学校関係という立場で申し上げますと、若い方の移動手段というのは防長交通様に学生も大変お世話になっておりますけれども、バス或いは自転車という交通手段も多いですが、資料3の整備の図を拝見すると、駐輪場が細かい表に書いてないだけかと思いますが、ぜひ、若い、車に乗らない世代が来やすいアピールのために、駐輪場があることをお示しいただけるとありがたいと思いました。

これからの中学生の部活動が地域移行化していったら、おそらくこのエリアに色々なところから、中学生が自力で移動して来られることも想定されるのかなと思います。その時に、自転車で来る中学生がきっと増えるであろうと思いますので、駐輪場、ぜひ入れていただけたらと思います。

(会長)

台湾五葉松は非常に貴重な由来のある資源です。ヒマラヤスギも戦災復興の中でありま

が、ランドスケープ的な地域資源が実はこの徳山周辺にはあるということを、このプロジェクトの中で大切にすることが、歴史の継承になり、それがストリートから建築、建築から街路といったような、循環を生む上での建築的な考え、街路のしつらえにもルールがあるのではないかというご指摘です。今後のデザインコードにも反映していくべき重要な問題の指摘を受けたと思います。

また技術的には自転車で動いていることも多いので、自転車の停め方、最近は国土交通省もモビリティハブなどを言っていますが、街路全体がモビリティハブになるように、上手な停め方、良い公共交通の乗り方を誘導するようなデザインの工夫、こういうものを考えてくださいという問いかけであったと思いますので、ぜひそうしたことを今後中心に据えて議論していければと思います。

(委員)

周南市は回遊性について非常に重視されて、色々なご意見があったのかと思いました。回遊性を踏まえると、これから市民の方々と議論する機会があるので、全体的な議論でやってほしいことが1つあります。

資料1の4ページの街を上から見た写真ですが、御幸通は駅から出て、当然メインストリートとわかるような感じで道路が伸びています。市役所から岐山通になり、写真で言うと図の緑の点線が100円のバスのルートですね。要は、岐山通になると隣の博物館通りの方に文化機能が集中していて、道路が一本東にずれている感覚があります。ずれたところに今回、山口銀行様があるところで児玉神社の台湾五葉松の並木があり、そこをうまく利用して、一本ずれたところの博物館通りを、メインストリート、都心軸のように考えてみるのもありなのかなと思いました。

実は博物館の通りの方が、喫茶店や中華料理がおいしいお店などが集中しており、岐山通は市役所とコンビニエンスストアしかありません。

また、周南公立大学は入学式を周南文化会館で行います。維新ホールが山口市にあります。それまでは県内最大の集客、1800人が入る大ホールの施設でした。保護者の方や来賓の方がいらっしゃいますが、式が終わった後に皆、博物館通りを南下し、徳山小学校の突き当りを右に曲がり市役所の横を通って駅に戻る方がほとんどです。

岐山通から上は都心軸の1つということで設定されていますが、バスではルートが2本に分かれています。市役所のところで右に曲がり、そこにストリートファニチャーを入れて博物館通りの一本軸にしても良いと思います。

駅から動物園までは歩いて行けない距離ではなく、動物園周辺は博物館、文化会館と周南市でもここは文化施設が集中している施設です。途中の博物館通りは県庁の総合庁舎の横、桜並木もあり、非常に充実した通りなので、岐山通側の都心軸の検討もぜひ市民の方々のご意見も聞きながら進めていただけたらと思います。

今回、事務局から出された資料を見ても、2つの通りに分かれています。都心軸があるわけですが、岐山通と博物館通りの2軸都心軸という意見もあるかもしれません。動物園も、入園者数増加を目指しており、博物館でも非常に良い展示をやっております。

ウォーカブルなまちづくり、歩いて文化を経験して、様々な機能を連結して歩いていけるまちづくりするのであれば、博物館通りも都心軸のメインとしてもいいということもあるかもしれません。そのあたりをぜひ議論していただけたらと思います。

(会長)

岐山通とそれから博物館通りは文化的な蓄積もあるので、非常に重要なご指摘です。特に岐山通はもちろん、市役所もありますので、格式のある通りにしていくべきかと思います。この辺りについて、もし事務局からお考えやそのあたりの扱いについて、ありましたら少しご意見賜れたらと思いますが、何か追加的にございますか。

(事務局)

今回、駅から市民館跡地ということで、御幸通をメインと考えておりますが、都心軸全体で言いますと、言われますように動物園までというところがございます。つい先日も「駅から動物園まで歩いてみよう」というまち歩きイベントも開催されて、多くの人に参加いただいたということも伺っております。

市役所から北側につきましては岐山通というところで従来からのストリートがあります。また、徳山小学校前から周南市美術博物館の通りは、桜並木も今から良くなれば、桜のトンネルが見られる1つの観光名所でございます。性格も、岐山通と桜並木の通りで若干違うかなと考えております。その地域の特性、ストリートの特性を生かしながら、ウォーカブルなまちづくりということを全体的に考えていければと思います。ただ今回、本協議会ではメインで御幸通と市民館跡地というところを重点的にお願いできればと思っております。

(会長)

ターゲットとしては、今回の事業範囲がすでに決まっておりますけれども、ウォーカブルとか回遊性については、まさに岐山通から博物館通りのあたりまで含めてイベント的なことも考えていくべきですし、プラン全体としてはその辺りも含めた形での議論していくことで、この御幸通のプランもはね返ってくる部分があるかと思いますが、ぜひそうした形で進められればと思います。

それでは、議題がまだ2つありますので、2つ説明していただいたあと、オブザーバーの国の方や県の方、山口銀行様もおられますので、ご意見を伺いたいと思っております。

議事4、5について、続けてお願いします。

（事務局）

では、議事４「周南市都心軸景観デザイン方針の作成について」、ご説明いたします。

この議事では、周南市都心軸景観デザイン方針の策定の目的や方針の検討範囲、現状と課題などについてご説明いたします。

景観デザイン方針とはどのようなものを作っていくのかということについて、委員の皆様と意識の共有を図りたいと思っております。

まず、周南市都心軸景観デザイン方針作成の目的についてご説明します。

こちらは、議事２でご説明しました、周南市都心軸ウォークアブルなまちづくりビジョン素案より抜粋している都心軸の将来イメージです。都心軸の回遊性向上に向けては、公共空間の活用や景観形成の推進に取り組み、憩いの空間を創出することが必要だと考えています。

また、議事３でご説明しました、市民館跡地を活用した拠点づくりとして、現在、基本構想・基本計画の策定を進めているところであり、また、拠点間の連携強化の取り組みとして、御幸通の道路空間再編の検討など、今後、都心軸の公共空間に大きな変化が生じることが考えられますので、周南市として、これらのエリアをどうしていきたいのかを明確にする必要があると考えております。そのため、周南市都心軸景観デザイン方針とは、こうした都心軸における空間の変化に先立ち、滞在回遊したくなる魅力向上を目的とした、統一された景観デザインを創出するための方針となります。

今回作成する景観デザイン方針の検討範囲を、赤枠で示した部分となります。周辺を含め検討範囲には様々な拠点が存在していますが、その中でも、市民館跡地及び御幸通については、今後事業が進んでいくことが想定されるため、景観デザイン方針の検討範囲として設定し、統一された景観デザインの作成を目指していきます。

景観デザイン方針の策定に当たり、検討範囲が抱える課題、現状を把握するため、エリア１を御幸通、エリア２を市民館跡地、エリア３を検討範囲全体とし、それぞれの現状や課題を整理します。

まず、エリア１御幸通の現状についてです。御幸通の副道は、荷さばき場として有効活用される空間であるとともに、一般車両の駐車場として利用されています。歩道部分については、朝夕の通勤通学時間帯は歩行者と自転車が錯綜し、安全な歩行空間が確保されていない様子が見受けられます。御幸通はヒマラヤスギ、イチョウが立ち並び、全国的にも珍しい、緑豊かな景観を形成し、戦災復興からの時代を感じさせる貴重な財産ですが、一方で、近年では、老木化に伴う倒木などが確認されています。また、舗装については、既存の舗装が経年劣化で破損しており、安全な通行確保のための補修として、アスファルト舗装が使用されている箇所が見受けられます。

次に、エリア２市民館跡地の現状についてです。議事３でご説明しました通り、こちらのエリアには、今回、国の合同庁舎、山口銀行、文化小ホール、保健センター、立体駐車場の整備に向けた市民館跡地整備基本構想・基本計画を策定中です。また、周辺には周南市出身

の児玉源太郎の功績をたたえる記念樹として、樹齢約 100 年を超える台湾五葉松が立ち並ぶ市道児玉町線や、子供たちの遊び場や、憩いの場として賑わいを見せる児玉公園などが存在しております。

最後にエリア 3 として、駅前広場から市民館跡地にかけての検討範囲全体での現状です。エリア全体としては、徳山駅周辺、市役所新庁舎などの拠点形成が進んでいますが、それらの拠点間をつなぐウォークアブルな空間は創出されていません。岐山通と御幸通は、街路樹の連続性が維持され、緑豊かな空間となっていますが、しつらえが異なるため、一体感が必要となります。また、具体的なデザインルールが存在しないため、拠点ごとに、異なるデザインが採用されております。

こうした現状から見えてくる主な課題として、人中心となる新たな方向性の検討が必要であることと、エリア全体の景観デザインの統一性、この 2 つが挙げられます。人中心となる新たな道路構成の検討として、車中心から人中心の空間となる社会の変化に対応するため、安全な歩行空間の確保に加え、人が歩きやすい快適な空間創出や、人が歩きたくなる景観の仕掛けが必要と考えており、反射熱を減らす舗装素材の選択や、日陰を創出する街路樹の配置計画、副道などの構造的な利活用の検討が必要となってきます。エリア全体の景観デザインの統一性の確保という課題については、徳山駅から市民館跡地までの連続した空間におけるデザインルールを定めることで、各拠点が多様なデザインで整備されることを抑制しつつ、御幸通、市民館跡地、公園が一体的に機能し、活用される空間を創出することを目指していきます。

次に、これから景観デザイン方針として、こういった内容を定めていくのかについてご説明します。まず、本市の地域特性や歴史的背景などから、エリア全体の強み、抱える課題を整理し、そこから強みを活かす課題解決のための検討範囲全体のコンセプトを設定いたします。エリア全体のコンセプトを踏まえつつ、2 つのエリアごとの特性を生かしたコンセプトを設定し、各エリアが目指すべき方針を設定いたします。最後に、目指すべき方針を実現するため、空間を構成する景観要素を抽出し、それに対する技術基準、ルールを定めていきます。

ここで具体的な他市事例を紹介しながら、景観デザイン方針についてのイメージの共有を図りたいと思います。こちら参考として、大阪市が作成した御堂筋デザインガイドラインの抜粋を合わせて表示しております。同じ構成や内容とするということではありませんので、あくまでイメージを共有する参考としてご覧ください。まず、全体のコンセプト設定のため、地域や地域の強みや課題を整理していきます。

次に、整理された強みや課題からエリア全体のコンセプトを設定いたします。全体のコンセプト設定は、今後の取り組み方針についても規定していきます。

そして、全体のコンセプトを踏まえつつ、各エリアの特性を生かした具体的なコンセプトや持続的方針について設定いたします。

最後に技術的基準の作成についてですが、こちらも参考として、同じ大阪市が作成している道路空間再編整備ガイドラインの一部を抜粋しております。各エリアのコンセプトや目指すべき方針を実現するため、空間を構成する景観要素を抽出いたします。

このガイドラインでは、道路空間の景観要素として、全 15 項目を抽出しています。本市が作成するデザイン方針で、どのような項目を要素として抽出していくか等については、今後皆様と協議しながら検討していきたいと思っております。

技術的基準として抽出された景観要素、一つ一つに基準を定めていきます。御堂筋の事例では、植栽配置計画、景観照明器具の色彩、照明の色温度などは、定量的な基準を設けています。本市においても、御幸通のヒマラヤスギやイチョウといった街路樹について、どのように扱っていくのかということは重要な検討項目になると思っております。

他にも舗装材についてはコンセプトに合致するかや、歩きやすさを考慮するなど、幅広い視点から条件を決定していきますが、今回の景観デザイン方針にどの程度までの基準を定めていくかについても、今後検討して参ります。

このように、エリアのコンセプトから具体的なデザインルールを作成することで、まちづくりに参画するすべての人々が、エリアの将来像や、目指すべき景観を共有できる景観デザイン方針の作成を今後進めて参ります。

議事 4 のご説明は以上となります。

それでは最後に、景観デザイン方針作成に係る検討の進め方につきましてご説明いたします。

景観デザイン方針に係る検討の進め方については、市民意見聴取の目的や、協議会、ワークショップの実施内容、全体の進め方についてご説明いたします。

これまでの議事 1 から 4 では、御幸通から市民館跡地までのエリアを居心地の良い空間、歩きたくなる空間にするための方策について、ご説明させていただきました。もう 1 つ、このエリアで本市が目指しますのは、先ほど委員からも意見がありましたが、「使われ続ける空間にすること」です。そのためには、市民の方々からのご意見をデザインに反映し、市民の方々とともにこのエリアを作り上げていく、共創のプロセスが不可欠だと考えています。

市民意見の聴取に関する関係性は、図に示しますように、市はワークショップやアンケートを通じて、市民の方々から直接ご意見を伺います。このご意見については、ウォークアブルなまちづくり推進協議会にも共有し、協議会はこれを踏まえて、市に対し検討や助言を行っていただきたいと考えています。なお、市民館跡地エリアについては、先ほどもご説明がありましたが、基本構想・基本計画策定業務等において、別途ワークショップ等が実施予定されておりますので、そこで得られたご意見についても、担当課と連携しながら、最大限に吸い上げていく予定としております。

市民館跡地は別途ワークショップを実施するため、御幸通に関する市民ワークショップに

ついて、その目的をご説明します。

①空間づくりへの市民参画として、市民の方々が景観デザイン方針作成に参画することで、御幸通への親しみや愛着を高め、より身近な存在となることを目指します。

②担い手の発掘、育成として、御幸通やまちづくりにおいて、商業活動、地域活動、維持管理活動などを継続的に担う人材を発掘し、育成することで、使われ続ける空間につなげていきます。

資料5の6ページは、検討を進める上での全体的なスケジュールを示したものです。ウォーカブルなまちづくり推進協議会の協議内容についてご説明します。

ウォーカブルなまちづくり推進協議会の各会議の協議事項についてです。第1回が本日となっており、表示しております内容について、今、意見をいただいております。

第2回については、周南市の基礎情報の整備や市民ワークショップの開催報告、そして、都心軸の目指す空間像や御幸通のデザインの考え方について議論していただきたいと考えています。

第3回では、市民ワークショップの結果の報告、都心軸のデザインの考え方として、御幸通と市民館跡地、それぞれのデザインの考え方を深掘りします。

第4回では、これまでの議論を踏まえて、都心軸景観デザイン方針案、すなわち御幸通と市民館跡地の具体的な景観デザイン方針案をご提示する予定です。市民の方々のご意見は、この協議会の第2回目以降に反映されます。

また、第3回、4回の各段階において、右側の矢印で示されています通り、市民館跡地整備有識者検討会議、ワークショップ等の意見も適宜反映しながら、多角的な視点を取り入れて検討を進めます。

次に、市民ワークショップについてご説明します。こちらが御幸通における市民ワークショップの具体的な実施内容となります。市民の方々には、コンセプトと一緒に考え、将来的な担い手の発掘、育成を意識した行動計画の作成に関わっていただくことを予定しています。

まず、第1回の現状把握では、まち歩きを通じ、御幸通の基礎情報や地域特性を理解し、御幸通の魅力や課題について、参加者間で共有したいと考えています。

第2回コンセプトの議論では、参加者の属性に合わせた班に分かれ、御幸通の具体的な使い方や、御幸通及びエリア全体のコンセプトについて議論をしていただきたいと考えています。

そして、第3回具体的な取り組みの議論では、事務局が作成した景観デザイン方針案を踏まえ、班ごとにコンセプトを実現するための具体的な行動計画をともに作成する予定です。

これらのワークショップを通じて、市民の方々の声を、具体的な景観デザイン方針に落とし込み、御幸通や市民館跡地を含めたエリアが、より魅力的で、愛される空間となるよう着実に検討を進めます。

これまでにご説明した内容をスケジュールとして落とし込むと、6ページの図に示す通り

となります。なお、市民の方々からの意見聴取の方法として、ワークショップと合わせてアンケートを実施する予定としております。こちらの方は5月から6月ごろを予定しており、ワークショップと同様に、御幸通のコンセプトや、どんな空間にしたいか、利活用していきたいかというようなことをメインに、設問を設定していきたいと考えています。

この図に示す通り、周南市ウォーカブルなまちづくり推進協議会、そして市民の方々が密接に連携し、景観デザイン方針の策定を進めていくことで、冬頃には景観デザイン方針の素案について委員の皆様にご提示したいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上で議題5の説明を終わります。

(会長)

それではオブザーバーの方から専門的な観点、施設等管理されている観点からコメントいただけたらと思っております。

(オブザーバー)

財務局は土地の管理をしており、今回合同庁舎を建てるにあたり、周辺の税務署やハローワークの土地と、市民館跡地、市有地を交換して、建てるということでお話を聞いておりました。

景観のデザイン方針に携わることがほとんどありません。財務局は広島市のまちづくり団体、広島都心会議に入れていただいている、広島の回遊性の向上や、ウォーカブルのまちづくりが課題で、周南市と似たような状況だと思います。広島は広島駅の方が開発されていて、賑わいが出てきて、本通りや八丁堀の少し離れたところに商業施設が多くなっており、回遊性を高めるということで同じように、まちづくり団体としてもやっぺいこうということで、県や市、団体とコラボして、ストリートファニチャーを置いたり、道路表示を分かりやすくしたり、そういった活動を行っています。周南市もそういった活動に結びつくようなハード面の整備が、少しでも進んでいけばいいなと思って聞いておりました。

(オブザーバー)

建政部の都市住宅整備課は、都市・まちづくりの観点から、地方自治体の方に色々ご協力させていただいている立場でございます。

このウォーカブルなまちづくりという観点からも、我々も色々支援させていただく立場でございますので、これからも引き続き、周南市、山口県と協力して、より良いものにしていきたいと考えています。

また、まちづくりの関係から言うと、御幸通など道路についてはまちづくりに欠かせないものだと考えております。人間の体で言いますと、道路を血管、駅を心臓とすると、そこから出てきた人たちが、道を通っていかないといけません。

特にこのウォークアブルなまちづくりで回遊性を上げるということで、周南市の特徴としては、地方の都市の高齢化も進んでいく中ではありますが、大学等が多数あり、学生も結構いらっしゃるので、委員の方から学生の視点からも色々取り入れていただきたいというお話もございましたので、そういった上でご協力できることがあれば、積極的にさせていただきたいと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。

(オブザーバー)

私どもがこの度、周南合同庁舎の施設整備を担当するということになりますので、周南合同庁舎については市民館跡地エリアの中に建設するという事で、エリアの中での周南市と施設との連携というところが重要になってくると思います。

また、エリアの中での施設ということではなく、先ほどお話に出ていましたけれども、岐山通の景観についても、例えば PFI で実施する場合に、景観に対して保険をつける必要もあると考えております。

今回、協議会の中でデザイン方針に対してのご意見を出されるということで、デザイン方針についてはどちらかというと、助言や進捗状況の確認を受ける立場にございますので、ご意見を聞きながら、できるかについて、国の施設単体ではなくエリアに対する貢献をできればと考えております。

(オブザーバー)

山口銀行の建屋について、シンボリックな建物というお褒めの言葉をいただきましてありがとうございます。一方で、築後 48 年が経過しておりまして、外壁のレンガもちょっと剥落しているようなところもございます。建物の老朽化によって、従業員、それからお客様、ご利用いただくお客様の快適性や安全性というところもある必要がございます。

また駐車場は、約 50 年前に整備されたことから、かなり狭いので、お客様の利便性をしっかり考えていく必要があると思っています。

駅前の市街地再開発事業でも、駅前支店の方で関わらせていただいております、地域に密着する金融機関として、皆様と協調しながら、独りよがりな建物にならないというところをしっかりと、皆様と一緒に考えていきたいと思っています。

資料の方で少しご意見もありましたけれども、今回、ターゲットとしている世代が回遊しなくなる機能というところで申しますと、行政機能のみならず、経済活動に繋がるような商業機能も必要なのかなと資料を拝見しておりました。

(会長)

地域とともにということでありがとうございます。

(オブザーバー)

ウォークアブルなまちづくりの推進というところを前提として、交通事故の危険性の少ない、安心安全な道路環境づくりというのは空間に必要なものではないかと思っています。

交通安全の基本で言いますと、広い歩道や側道等を生かした、歩行者や自転車、車、バスが、なるべく通りやすい道路デザインというのが必要だと思います。

また周南市は自転車道が丁寧に整備されている都市でもありますので、エリア外への接続など、一貫した交通安全に寄与できるような道路デザインを私たちも考えていきたいと思っています。

(オブザーバー)

私の方からは、先ほど事務局からもご紹介ありましたが、県の方で持続可能なまちづくり集中支援事業として、2年間支援のモデルとして進めさせていただき、社会実験の結果もご紹介いただきました。

色々な関係者、商工会議所さん、学生さんとか、色々ご意見をいただきながら、進めて、こういう取り組みをやることは、関係者が非常に多くなり大変な苦労があるというのを改めて認識したところでございます。

周南市の取り組み、中心市街地活性化基本計画区域全体のビジョンを今作っているということで、社会実験では、今の駅と市役所をつなぐ拠点間で、人の流れが変わってくるのか、人の動きの広がりが変わるのかを主体的に検証するのが主な着目点として考えたところでございました。

他にも色々な取り組み、エリア全体の取り組み、回遊性に向けた取り組みというのが多くあると思ひまして、今後、ビジョンの中に取り組み内容が色々記載されると思います。まだできていないときに、検証しないといけないことが残っておりますので、引き続き、こういった体制の中で連携して継続的にできることが重要であると考えております。

(オブザーバー)

周南土木建築事務所としましては、県道管理者の立場でオブザーバーとして参加させていただいているということでございます。今後協議会等で協議されていく中で、道路管理者として、どこまで、何ができるのかを考えていきたいと思っております。

(会長)

以上となりますが、このメンバーでやっていくことになります。

戦災復興から80年経って、周南市は非常に大都市になったわけでございますけれども、もう1回都市基盤の再生ということで、シンボルとなる御幸通の再生をこのチームで取り組んでいくということになりますので、ぜひ皆様、闊達なご意見を、何度も何度も御幸通を歩い

ていただいて、色々なアイデアを出していただいて、「私たちがこのプロジェクトをやったよ」と言えるように頑張っていければと思います。

今日はありがとうございました。

(事務局)

会長、進行ありがとうございました。皆様も長時間にわたり、ありがとうございました。

以上をもちまして、第1回周南市ウォークアブルなまちづくり推進協議会を閉会いたします。本日はありがとうございました。

閉会 16時00分